河内寺廃寺跡第 25 次発掘調査概要

写真　No. 4 地点東壁（西から）

東大阪市教育委員会

平成 28 年 3 月

例　　言

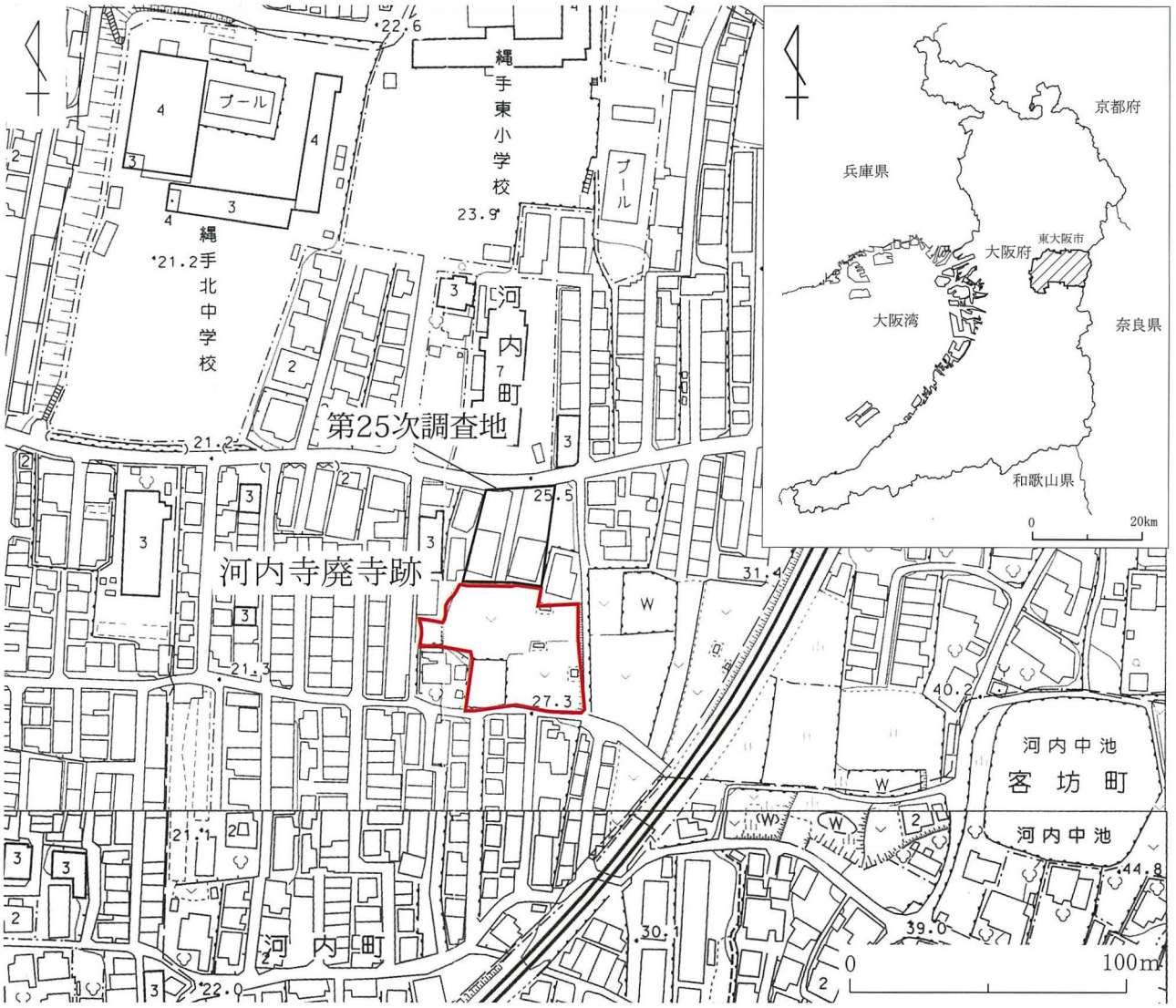
1　本書は、史跡公園整備に伴う河内寺廃寺跡第 25 次発掘調査概要である。

2　調査は東大阪市教育委員会が実施した。

3　現地調査及び本書の執筆は、仲林篤史が担当して行った。

4　考古学用語については、佐原真・田中琢『日本考古学辞典』、文化庁文化財部記念物課『発掘調査の手引き－各種遺跡調査編―』の表記に従った。

5　現地の土色は、農林水産省農林水産技術事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』（2000 年版）に準拠し、記号表示も同書に従った。



第 1 図　調査位置図

河内寺廃寺跡第 25 次発掘調査概要

1　はじめに

国指定史跡河内寺廃寺跡は、本市河内町に位置する飛鳥時代後期に建立され鎌倉時代まで存続した古代寺院跡である。史跡指定地は標高 27 m前後の生駒山西麓の扇状地緩斜面上にあり、近鉄奈良線の線路が瓢箪山駅と枚岡駅との間で描くカーブの西側にある。

これまでの調査研究で、河内寺廃寺跡は、河内国河内郡大領であった河内直（連）が創建に関わっていたこと、四天王寺式伽藍配置をとっていたこと等が分かっている。

史跡指定地は、平成 16 年度の発掘調査で保存状態の良好な建物基壇及び礎石が検出されたことから現状保存がすすみ、平成 20 年に国の史跡に指定され、同年に公有地化が完了している。史跡指定地内には、金堂、講堂及び東面回廊基壇の一部が残されている。

2　調査にいたる経過

平成 27 年 11 月 18 日から 21 日にかけて、河内寺廃寺跡史跡公園整備工事に伴う発掘調査を河内町 438 番 1 で行った。

当該地は、現在 2 棟の共同住宅と駐車場からなる宅地である。昭和 43 年 (1968) に大阪府教育委員会が実施した発掘調査により、河内寺廃寺跡に伴う遺構の検出が報告されているものの、その後行われた共同住宅建設工事や下水道管埋設工事等によって、遺構の保存状態は不明であった。

平成 27 年 9 月に当該地の地権者より自己の所有する共同住宅の建替えを考えているとの相談が本市文化財課にあった。このため、建替え工事に伴う確認調査が必要になること及び遺構の状態によっては史跡地として追加指定される可能性があることを説明した。その上で、地権者と協議し、当該地の一部で遺構の有無を再確認するための発掘調査を実施することを決定した。調査は、当該地でも実施する史跡公園整備工事（雨水排水工事）と並行して行うこととした。

なお、昭和 43 年 (1968) の大阪府教育委員会の報告は以下のとおりである。

第Ⅳ地区（注：今回の調査地）

第Ⅲ地区（注：現史跡指定地内の講堂周辺）の田圃の北側一段下ったところの田圃である。その比高は約 80cm であり、遺構の検出は殆んど期待していなかったが、予想に反して基壇南側突出部と考えられるものの一部分 (東側) を検出し得た。床土下極く浅い青褐色砂黄土面にあり、第Ⅲ地区の基壇の場合と同様突き固められた状態ではなくかつ石敷の内外共に特に土の変化が見られなかったことが注意される。ここもまた大巾に削平されて基壇の基底部のみかろうじて残ったものであろうか。石は、第Ⅲ地区の基壇の石に比べてかなり大きく、必らずしも密接して据えられていない。突出部は、南に 3.30 m突出し、西に延びている様子であるが、遺存状態悪く途中で切れて、Nトレンチ拡張部西端にて再び現出している。その方向も、第Ⅲ地区基壇同様W 15° E である。石及び突出部の大いさからみて、ここに建てていた建物はかなり大きなものであったことが想像される。

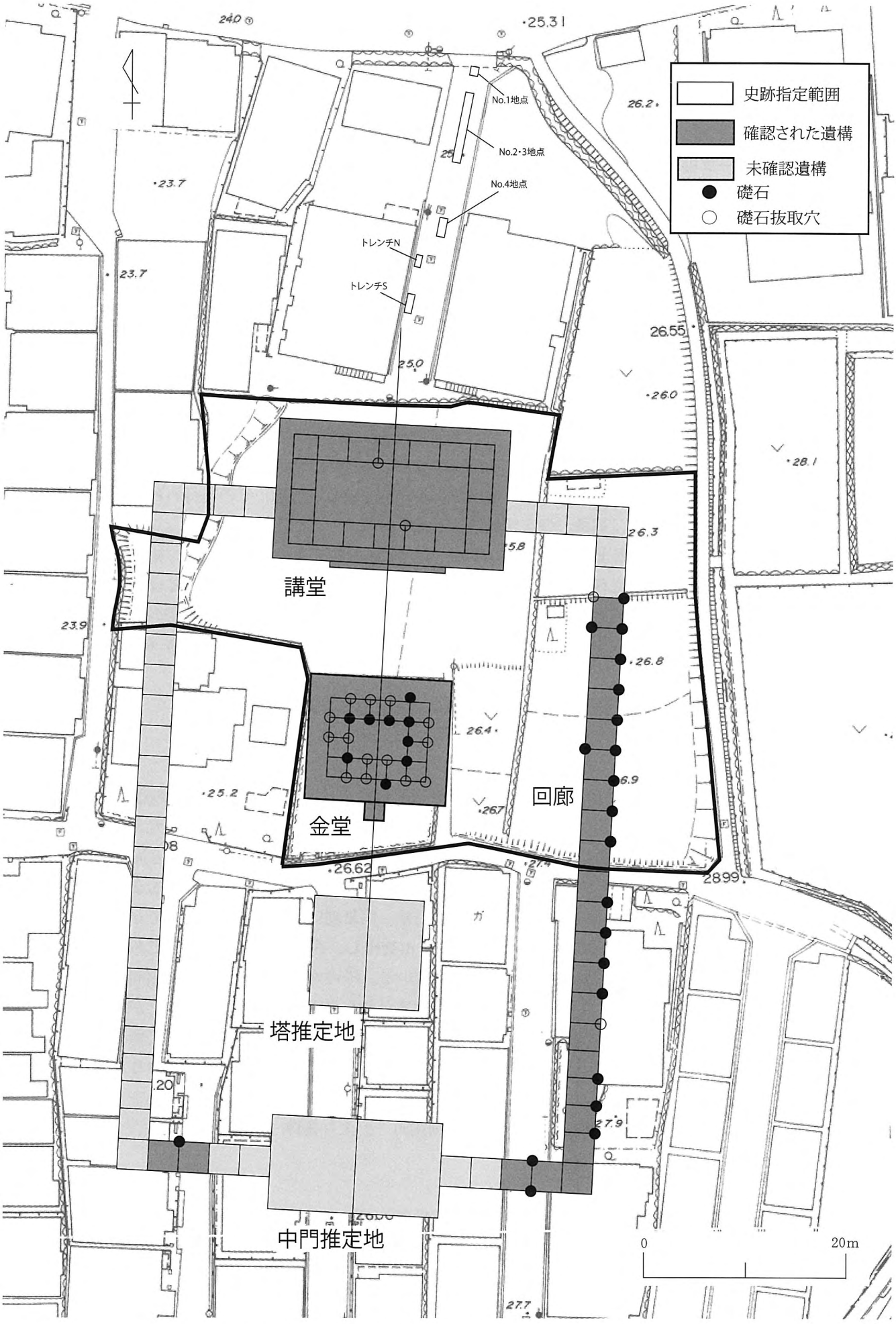
なお、当代の瓦や石で作った排水施設様のものは、石列の南側あるいは突出部を横断して二重になり、または直角に折れ曲って同一面上に走っているが、その方向は、基壇石列の線とかなり喰い違っており、当代のものとは考え難い。より後出的なものであろう。

（大阪府教育委員会 1968『河内寺跡調査概報－東大阪市河内町－』より抜粋（原文ママ））

3　調査成果

発掘調査は、史跡指定地内に溜まった雨水を今回の調査地である北側民有地を利用し排水することを目的とした既設管の入替え工事と並行して行った。調査方法は、管の入替え時に埋戻し土を除去し、遺構検出及び土層断面の観察による遺構の状態を確認することで行った。また、既設管入替工事とは別に、共同住宅の前面でガス又は水道管が埋設されていない部分に調査トレンチを 2 カ所設定し、調査を行った。

まず、雨水管入替えによる土層断面を 4 か所で記録した。それぞれ No.1 地点～ No.4 地点とした。



第２図　伽藍配置図及び調査トレンチ位置図

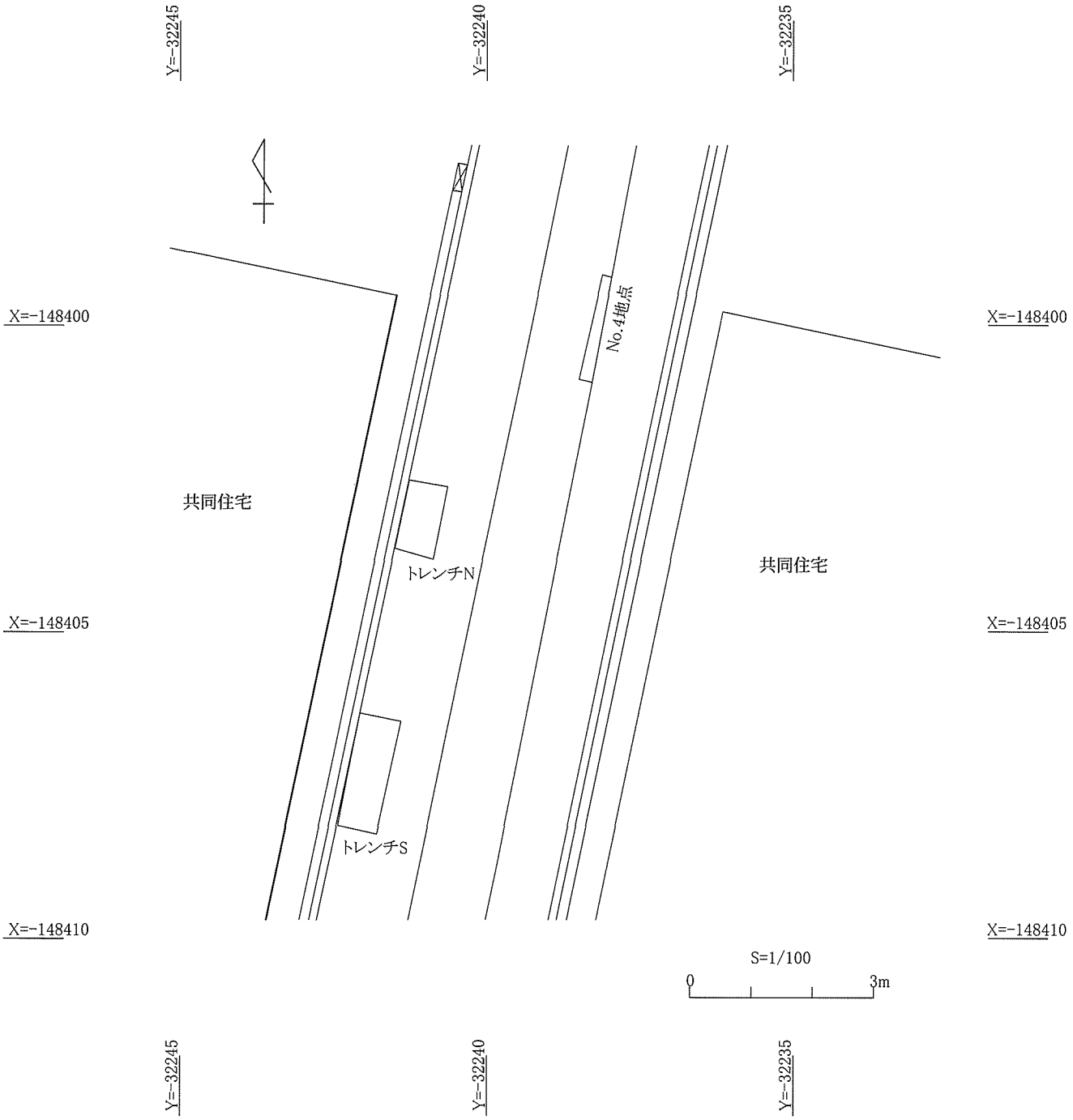
No. 1 地点

第 1 層　灰色 (5Y5/1) シルト質粘土

第 2 層　暗青灰色 (5B4/1) 粘土

第 3 層　黒色 (N2/0) 粘土

No. 1 地点は北側道路に最も近い地点で、遺物が出土したものの遺構は検出できなかった。第 1 層は現代の盛土である。第 2 層及び第 3 層は扇状地特有の堆積層である。北側道路には、道路と併行して東西に流れる水路が残されている。この水路は近世には灌漑用に利用されていたことが分かっており、元々の谷地形を水路として利用するに至ったものである。したがって、寺域の北限はこの道路となる。この地点からは古代寺院に伴う遺構は検出しなかった。



第 2 図　調査トレンチ配置図

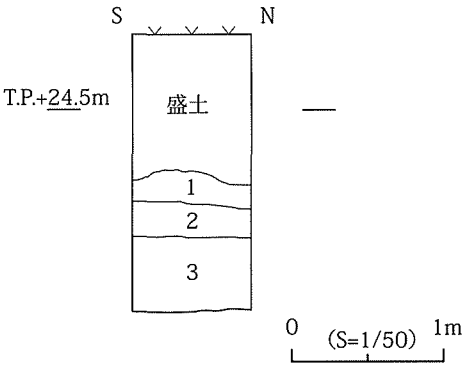
No. 2～4地点

第1層　褐灰色 (10YR4/1)　細～中礫混じり粘土質シルト。
第1a層　灰色 (5Y4/1)　細～中シルト混じり粘土。
第2層　灰色 (5Y4/1)　細～中礫混シルト質粘土。
第2a層　黄灰色 (2.5Y4/1)　細・中砂混じり粘土。
第2b層　黄灰色 (2.5Y5/1)　細砂混じり粘土。
第3層　灰色 (5Y4/1)　細～中礫混じりシルト質粘土。
第4層　黄灰色 (2.5Y4/1)　粘土質シルト。
第5層　暗灰黄色 (2.5Y4/2)　細礫混じり粘土質シルト。
第6層　暗灰黄色 (2.5Y4/2)　粘土質シルト。
第7層　暗灰黄色 (2.5Y5/2)　細～中礫混じり粘土質シルト。
第8層　黒褐色 (2.5Y3/2)　粘土。
第9層　黒色 (2.5Y2/1)　粘土。

No. 1地点から南へ4.2 mの地点がNo. 2・3地点の北端である。2地点は連続したものであるが、工程の都合上新設管を埋戻しながら調査を行ったため、2点に分割した。No. 4地点は、No. 2・3地点南端よりさらに南へ5.6 mの地点である。

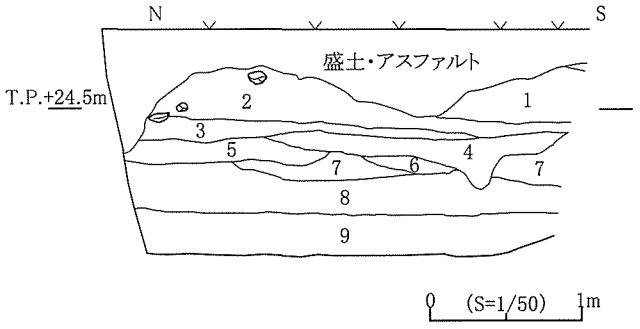
第1層は、近現代の盛土である。第2層は、近世の整地層である。第3～6層は、No. 2地点でのみ検出できた層である。堆積時期及び性格は不明である。第4～6層は、第7層の上面に堆積する層で、第4・6層は第7層を切り込むピット状の埋土である。第7層は河内寺廃寺跡に伴う整地層と考えられる層である。上面は、T.P.+24.3～24.4 mである。第8層は炭化物を含む層で、古代寺院以前の整地層と考えられるが、遺物を検出していないため、堆積時期は不明である。第9層は自然堆積による層で、いわゆる地山層である。

次に、共同住宅前面に設定したトレンチをそれぞれトレンチNとトレンチSとした。トレンチNの長辺は1.2 m、短辺は0.6 m、トレンチSの長辺は1.9 m、短辺は0.7 mである。トレンチ間の距離は2.7 mである。



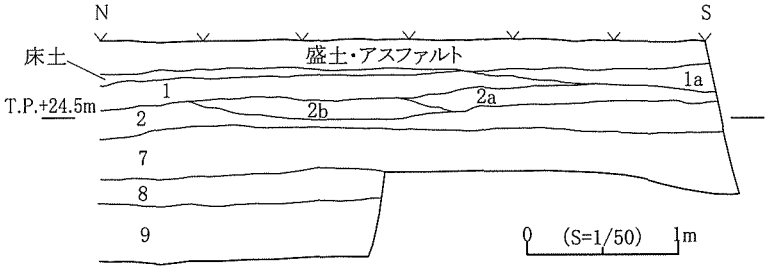
1　灰色(5Y5/1)　粘土
2　暗青灰色(5B4/1)　粘土
3　黒色(N2/0)　粘土

第4図　No.1地点柱状図



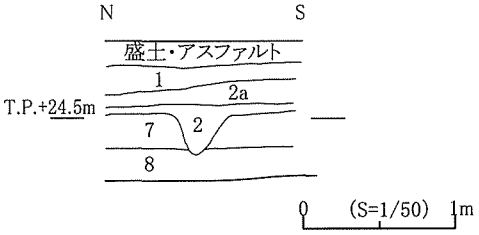
1　褐灰色(10YR4/1)　細～中礫混じり粘土質シルト
2　灰色(5Y4/1)　細～中礫混じりシルト質粘土
3　黒褐色(2.5Y3/2)　粘土質シルト
4　黄灰(色2.5Y4/1)　粘土質シルト
5　暗黄灰色(2.5Y4/2)　細礫混じり粘土質シルト
6　暗黄灰色(2.5Y4/2)　粘土質シルト
7　暗黄灰色2.5Y5/2　細～中礫混じり粘土質シルト
8　黒褐色(2.5Y3/2)　粘土
9　黒色(2.5Y2/1)　粘土

第5図　No.2地点土層断面図



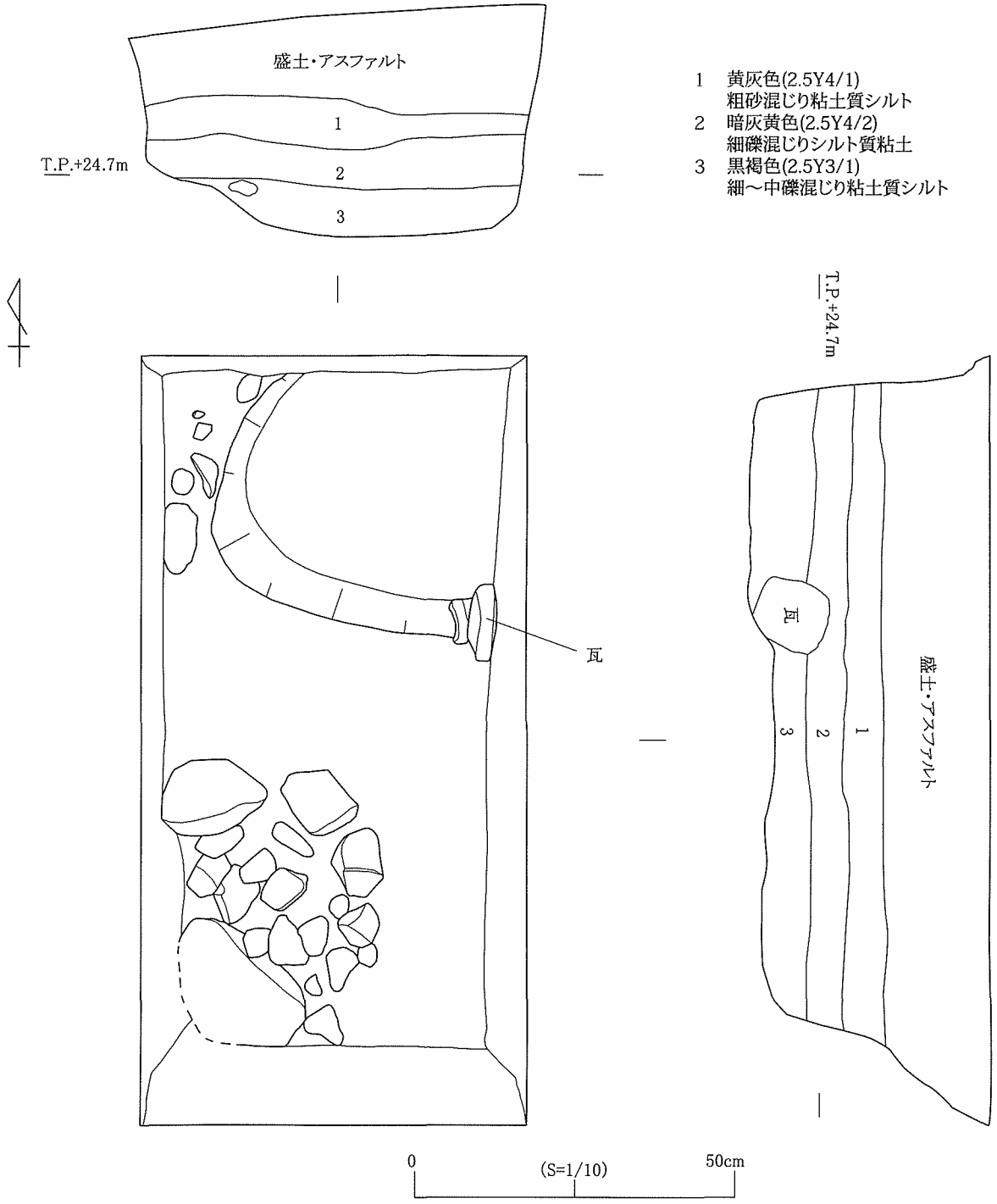
1a　灰色(5Y4/1)　細砂～シルト混じり粘土　2a　黄灰色(2.5Y5/1)　細砂混じり粘土
2b　黄灰色(2.5Y4/1)　細～中砂混じり粘土　7～9はNo.2地点と同層

第6図 No.3地点土層断面図



全てNo.2・3地点と同層

第7図　No. 4地点土層断面図



第８図　トレンチＮ平面図・断面図

トレンチＮ

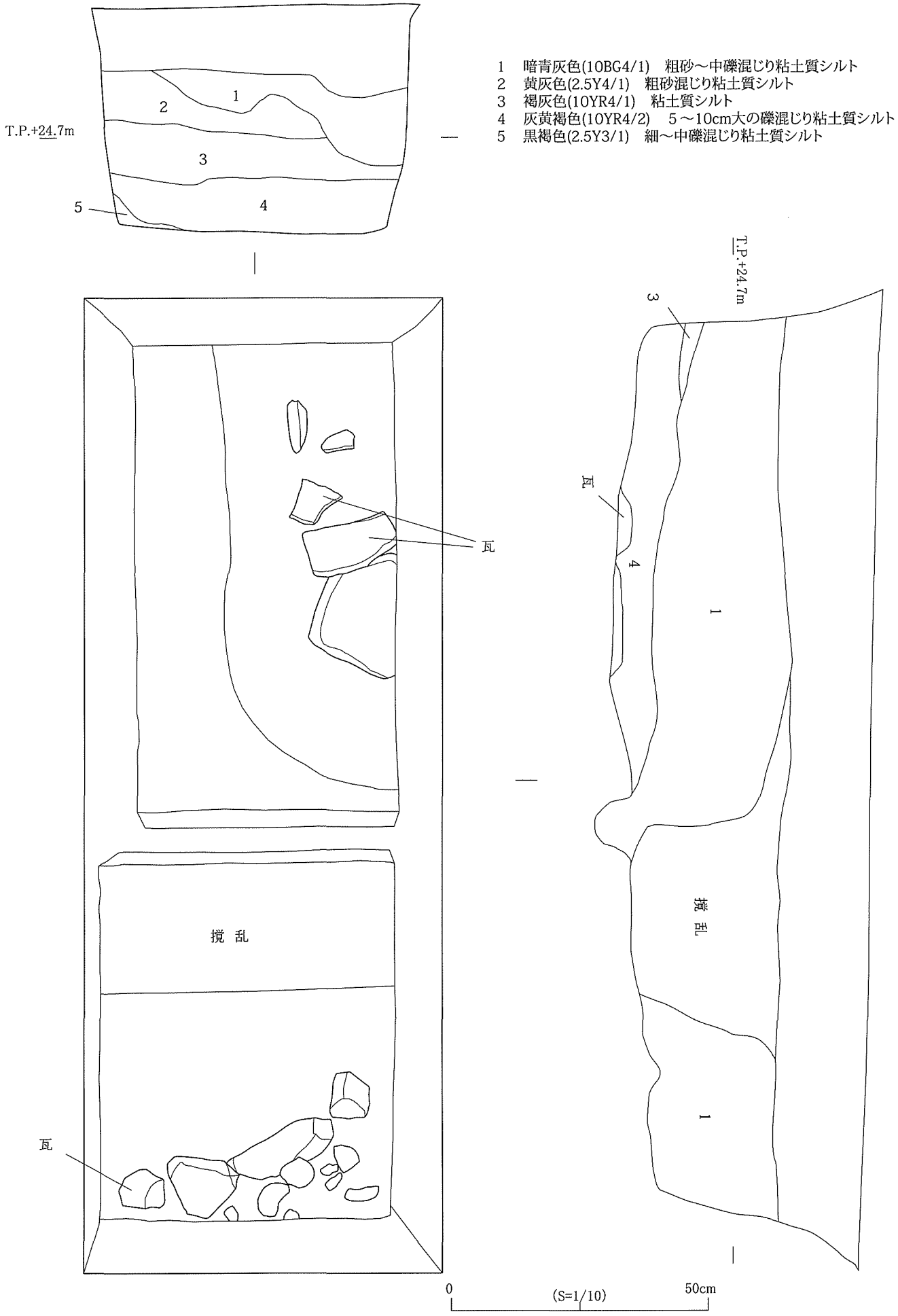
第１層　黄灰色 (2.5Y4/1)　粗砂混じり粘土質シルト

第２層　暗灰黄色 (2.5Y4/2)　細礫混じりシルト質粘土（土器含む。）

第３層　黒褐色 (2.5Y3/1)　細～中礫混じり粘土質シルト（瓦・土器含む。）

トレンチＮの堆積状況は大きく上層（第１・２層）と下層（第３層）に分かれる。上層が先に紹介した昭和43年の発掘調査で報告された「床土下極く浅い青褐色砂黄土」層かと思われたが、さらに掘り下げてみると下層に黒褐色層を検出した。同層より奈良時代以前の平瓦や須恵器が出土したことから、下層は古代寺院に伴う層であることを確認した。既往の発掘調査でも、史跡地内に残る講堂基壇北辺で同質の層を確認している。

トレンチＮの南部で礫の集積を確認した。礫は５～10cm の大きさで、トレンチ南東部を円弧状に巡っている。その円弧状の礫が集積する中心には、20cm 以上の大きさの石が据えられている状況が確認できた。トレンチ範囲に限りがあったため遺構の全体は明らかにならなかった。遺構を構成する層が講堂基壇と同様に基壇を構成す



第９図　トレンチＳ平面図・断面図

る層であれば、本トレンチで検出した礫の集積は、基壇上に建てられた建物に伴う根石の一部であるとも考えられる。

トレンチＳ
第１層　暗青灰色 (10BG4/1)　粗砂～中礫混じり粘土質シルト。
第２層　黄灰色 (2.5Y4/1)　粗砂混じり粘土質シルト（トレンチＮの第１層）。
第３層　褐灰色 (10YR4/1)　粘土質シルト。
第４層　灰黄褐色 (10YR4/2)　５～ 10cm 大の礫混じり粘土質シルト（瓦・土器含む。）。
第５層　黒褐色 (2.5Y3/1)　細～中礫混じり粘土質シルト（トレンチＮの第３層）。

トレンチＳでは、アスファルト舗装の下面で、西から東へと下がっていく落込み状の撹乱を受けていた。第１層は撹乱に伴う層である。第２層はトレンチＮで検出した第１層と同じ層である。第１層を除去すると、トレンチ東壁で平坦面をもった石とその周囲で丸瓦及び平瓦を検出した。瓦は、いずれも奈良時代以前の所産である。石及び瓦は第４層に含まれるもので、第４層を精査した結果、瓦質土器の小破片が出土した。平面及び断面観察の結果、第４層は第５層を切り込む土坑状の遺構を構成する層であることを確認した。石及び瓦は中世以降に埋め込まれたものである。遺構の範囲は不明瞭であるが、トレンチ内での検出幅は 0.86 mを測る。

トレンチＳは南辺を東西に走る水道管までとしたが、水道管は廃止されていたので、撤去し、トレンチをさらに南方に拡大した。拡大部のほとんどは第１層の撹乱内にあった。拡大したトレンチの南端部の第１層と第５層の境で、平坦面をもつ 20cm 大の石を含む石列を検出した。石列の並びは伽藍の軸線には合わないことから、後世のものと判断した。

トレンチＮ第３層及びトレンチＳ第５層の標高は、T.P.+24.5m 前後であった。雨水排水管入替に伴う調査地点のうち No. ４地点で検出した第７層上面はほぼ同じレベルで堆積しており、さらに北側の No.2・３地点に向かうにつれ、同層上面のレベルが下がっていることを確認した。史跡地内での発掘調査でも、伽藍内の地形は南から北へと傾斜し下がっていく状況が確認できていることから、同層が古代寺院に伴う整地層である蓋然性は高い。また、No. ２地点及びトレンチＳで確認したとおり、古代寺院に伴う整地層は上面より削平を受けており、その時期は、瓦質土器の小破片が出土したことから、中世以降であると考えられる。

４　まとめ

今回の調査により、調査地下層には依然として河内寺廃寺跡に伴う遺構が残されていることが判明した。今回の調査成果と史跡地内の既往の発掘調査成果を併せて考えると、遺構は礎石を伴う基壇建物の基底部と考えられる。昭和 43 年の発掘調査報告書には詳細な図面が添付されていないものの、同調査成果を追認できるものである。想定される建物は、講堂の後方に展開した建物、すなわち僧坊又は食堂といった施設であろうか。

調査期間中には文化庁記念物課の埋蔵文化財担当の調査官及び大阪府教育委員会文化財保護課職員に現地で指導及び助言をいただいた。

今回の調査成果を受け、調査地は史跡地と同等の価値を持つ土地であると認識するに至ったため、史跡地として追加指定を受けるべく、地権者との継続的な協議を行いつつ、文化庁及び大阪府と諸手続きを進めているところである。

【参考文献】
大阪府教育委員会　1968 「河内寺跡調査概報－東大阪市河内町－」
東大阪市遺跡保護調査会　1976 「皿池の調査報告 〈東大阪の歴史 1〉」
東大阪市教育委員会　2007 「河内寺廃寺跡発掘調査報告書」

1　調査区全景（北西から）

2　No.1 地点作業風景（西から）

3　No.4 地点東壁（西から）

1　トレンチＮ全景(西から)

2　トレンチＳ全景(西から)

3　調査完了状況(北から)

報告書抄録(その1)

ふりがな	かわちでらはいじあとだい25じはっくちょうさがいよう
書名	河内寺廃寺跡第25次発掘調査概要
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	仲林篤史
所在地	〒577-8521　東大阪市荒本北一丁目1番1号
発行年月日	2016年3月31日

ふりがな 所収遺跡	所在地	市町村コード	遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
かわちでらはいじあと 河内寺廃寺跡	東大阪市河内町438番1	27227	63	平成27年11月18日～11月21日	6.2㎡	史跡整備に伴う内容確認

報告書抄録(その2)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
河内寺廃寺跡 (第25次調査)	社寺跡	白鳳時代～室町時代	遺物包含層 整地層	土師器 須恵器 瓦	

河内寺廃寺跡第25次発掘調査概要

発行日　平成28年3月31日
編集・発行　東大阪市教育委員会
〒577-8521
東大阪市荒本北一丁目1番1号
TEL06-4309-3283
印刷所　㈱近畿印刷センター